

10月8日 銘心会南京・学習会

『外国で授業をすると日本の教育の問題が見えてくる』

● 銘心会南京の学習会は、今年すでに第3回目を迎えます。

互いに普段疑問に思った歴史や政治、社会の問題点を、自分なりに学習しまとめたものを発表しあっています。

今回松岡の発表は、海外の大学やハイスクールでの講演や上映活動をしてきたまとめとも言えます。

「南京の記憶をつなぐ」南京を中心とした講演会では発表をする機会がありませんでしたので、この学習会をとらえて、皆さんに外国での歴史認識教育と教育現場での具体例を挙げて、先生の自主教材作成や子供たちの教育への参加の姿勢をパワポで紹介します。

おのずと日本の教育現場での問題点に皆さんは気付くことでしょう。

ぜひご参加を。

日時：2023年10月8日（日曜日）午後2時から

参加費用：無料

場所：国労大阪会館2階小会議室①

JR天満橋下車改札を出て左、さらに左へ高架沿いに3分

連絡電話：090-8125-1757

発表者：松岡 環（銘心会南京代表）

発表内容：『外国で授業をすると日本の教育の問題が見えてくる』

概要：

筆者は2010年から2017年にかけて計5回北米と香港、中国などの市民や学生に歴史認識活動の講演会とドキュメンタリー『南京引き裂かれた記憶』（総監修：松岡環）の上映活動を行って来た。

主にカナダ（トロント、バンクーバー、エドモントン）アメリカ（NY、NJ）、香港の大学やハイスクールで先生や学生たちと交流する機会がたくさんあった。

約20校の様々な地域の私立や公立の学校での交流活動は、日本と全く異なる学生たちの積極的な姿が見られた。

また先生たちとの交流で印象に残った言葉は「平和を学ぶにはアジアの戦争を学ばなくてはならない」「子供たちが自ら考え学んで歴史を知るようにする」だった。

日本で若者や学生が自ら学び行動する機会と場がどこにあるのだろうと考えさせられた。